

# 安泉寺ハザード会だより 9.1号

◆8月20日、手話サークル「虹の会」災害ボランティア講座

文責：野呂博子



◆8月20日（火）愛西市佐織公民館で、手話サークル「虹の会」災害ボランティア講座があり、安泉寺ハザード会が発表する機会を得ました。

2時間の持ち時間の中で、

- ① 2016年から続けている東日本大震災の地を訪れて災害を学んでいること。
- ② 3月に能登半島地震のボランティア活動をしたこと。
- ③ ボランティア活動に行って実際に被災の現場を目

の当たり前にして思ったこと。

- ④ 今、学んだことを地元で生かすにはどのようにしたらよいか模索していること。

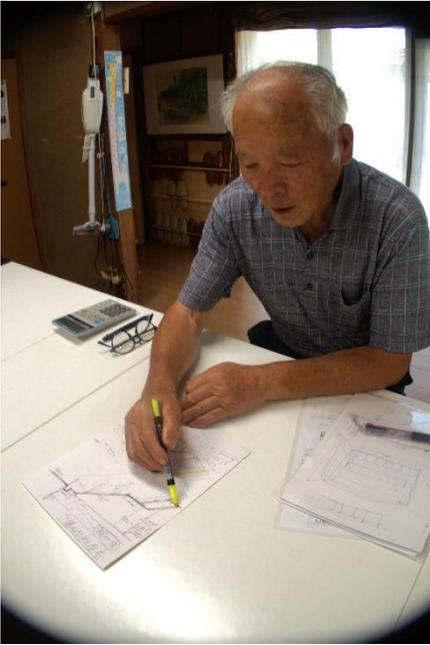
など、パワーポイントを使って発表しました。

聴覚障害者の方にも内容がよく分かるようにパワーポイントに字幕も入れ、手話通訳の方の協力も得て、質疑応答もスムーズに行うことができました。

◆大災害が起きると避難所に行けず、行政からの支援もなかなか届かない事を覚悟して数日は自力で生活出来るよう、水・防災食等の備蓄の必要性と、命を守る為に近隣住民で助け合える関係を作る、そして災害を他人事と考えず、いつか自分たちにも起こり得る事と考えて、普段から少しずつでも備えをし、命を守るよう会場の方々に強く訴えました。

◆私たちハザード会は、本当に小さな活動しかできません。しかし小さな活動の積み重ねが、きっと役立つことがあると信じ、災害死者がゼロへと近づくことを目指して日々減災へと努めていきたいと思えます。





◆左の方が堀田さんです。以前、民生委員で同僚だったころ、もう一人の横井さんを誘って、10人ほどで東北の被災地を視察しました。特に堀田さんは元間組の名古屋支店長で、建築・土木の専門家で、災害時の避難についても、理解のある方です。

◆今回、長年彼と私が温めていた、避難場所設置の絶妙な案について、具体的に報告していただきました。

◆愛西市の立田地区は、避難タワーを作ってもらうほど財政的に豊かではない。そこで、知恵を絞って、10地区ほどの場所に、費用のかからない避難場所を設置するという案です。

◆まず、耕作放棄地をまとめて、120m四方の土地を確保する。そこにピラミッドの上半分を平らにしたような場所を作る。高さは7m、盛り土の勾配は最大45度。盛り土は、

今工事が進んでいる、リニア新幹線の残土を利用します。残土は1立米(1m<sup>3</sup>)数千円で、持ち込まれます。土と共に、お金が入るという素晴らしいアイデアです。

◆堀田さんの試算によれば、一か所約2億円の持ち込み量が愛西市に入る計算になります。その費用で、避難場所の工事を行うというものです。

◆しかも、この場所は、普段は公園として市民に開放され、いざという時は即避難場所にそのまま使えるというものです。(これをフェイズフリーといいます)ここに近隣の約400名の避難者を受け入れ、簡単な倉庫に備蓄品を整えます。

◆財政難の愛西市に、何十億円もお金をかけて、災害施設を作ろうなどと、そんな無理なことは申しません。なんとか知恵を絞って、今なら実現できるという可能性のもとにこの案を堀田さんに考えていただきました。

◆もちろん、この計画を実施するには多くの困難と労力、持続力が必要です。農業者がオペレーターに土地の管理を委託し、実質空いているような土地を見つけ、まとめるだけでも大変な作業となることは理解できます。行政の行う仕事とはまず、そういうものです。様々な条例を引用して、「……は前例がないからダメ。……は法律上無理。」という我々の思いをつぶすような答えしか出せない行政などありません。そうではなく、「こうしたら、……を実現する可能性はありますよ。将来のために皆さんと一緒に汗を流しましょう。」とってくれるのが「公僕=public servant、民衆の召使い」としての矜持ではないでしょうか！下に、再度堀田さんとの懇談会を設けましたので、興味のある方は是非お越しく下さい。

## 避難場所設置に関する勉強会

- ★日時 9月16日(月) 振替休日 10:00~11:30
- ★場所 安泉寺 書院(コミュニティールーム)
- ★講師 堀田正三氏(元間組名古屋支店長)
- ★内容 立田地区における緊急避難場所設置についての具体的な提言
- ★参加者 どなたでも参加できます。人数無制限。参加費無料。